



CHAPTER 13

ロギング

Security Management アプライアンスの重要な機能に、ロギング機能があります。AsyncOS は、さまざまな情報が記録された、さまざまなタイプのログを生成します。Security Management アプライアンスは、システム情報の重要なリソースとして、コマンドライン インタフェース (CLI) とは別に、これらのログを提供します。ログ ファイルには、システムのさまざまなコンポーネントによる通常動作、および例外が記録されます。この情報は、Cisco IronPort アプライアンスをモニタするときに重要です。ログは、トラブルシューティングおよびパフォーマンスの評価にも使用できます。

この章は、次の項で構成されています。

- 「概要」 (P.13-1)
- 「ログの特徴」 (P.13-8)
- 「ログ サブスクリプション」 (P.13-37)

概要

ログは、AsyncOS の日常動作に関する重要な情報を収集する効率的な方法です。ログ ファイルには、Cisco IronPort アプライアンスのアクティビティに関する情報が記録されます。情報は、ログ ファイルのタイプによって異なります。たとえば、Cisco IronPort スпам検疫ログは、検疫に関する情報を記録し、Cisco IronPort メール テキスト ログは、アプライアンスを通過した電子メールに関する情報を記録します。

ほとんどのログは、プレーン テキスト (ASCII) 形式で記録されますが、トラッキング ログはリソースの効率性を保つためにバイナリ形式で記録されます。ASCII テキスト情報は、任意のテキスト エディタで読むことができます。

ログイングとレポーティング

ログイング データは、メッセージフローのデバッグ、基本的な日常の動作に関する情報の確認（FTP 接続の詳細、HTTP ログ ファイルなど）、アーカイブのコンプライアンスの目的に使用します。

このログイング データには、Email Security アプライアンスから直接アクセスすることも、任意の外部 FTP サーバに送信してアーカイブまたは読み取ることもできます。アプライアンスに FTP 接続してログにアクセスすることも、バックアップの目的でプレーン テキストのログを外部サーバにプッシュすることもできます。

レポーティング データを表示するには、アプライアンスのグラフィカル ユーザー インターフェイスの [Report] ページを使用します。元データにはアクセスできません。また、Security Management アプライアンス以外には送信できません。



(注)

Security Management アプライアンスは、Cisco IronPort スпам検疫 (ISQ) データの例外を含む、すべてのレポーティングおよびトラッキング情報を取り出します。ISQ データは、ESA から渡されます。

ログ タイプ

ログ サブスクリプションによって、ログ タイプと名前、ログイング レベル、およびその他の特性（ファイル サイズ、宛先情報など）が関連付けられます。コンフィギュレーション履歴ログ以外のすべてのログ タイプで、複数のサブスクリプションを使用できます。ログ タイプによって、そのログに記録されるデータが決定されます。ログ サブスクリプションを作成するときに、ログ タイプを選択します。詳細については、「[ログ サブスクリプション](#)」(P.13-37) を参照してください。

AsyncOS は、次のログ タイプを生成します。

表 13-1 ログ タイプ

ログ タイプ	説明
コンフィギュレーション履歴ログ	コンフィギュレーション履歴ログには、 Security Management アプライアンスに加えられた変更、およびその変更を行ったユーザが記録されます。ユーザが変更をコミットするたびに、新しいコンフィギュレーション履歴ログが作成されます。
CLI 監査ログ	CLI 監査ログには、システム上のすべての CLI アクティビティが記録されます。
FTP サーバ ログ	FTP ログには、インターフェイスでイネーブルになっている FTP サービスの情報が記録されます。接続の詳細とユーザ アクティビティが記録されます。
HTTP ログ	HTTP ログには、インターフェイスでイネーブルになっている HTTP サービスおよびセキュア HTTP サービスに関する情報が記録されます。HTTP を介してグラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) にアクセスするため、HTTP ログは基本的に、CLI 監査ログの GUI 版になっています。セッション データ (新規セッション、期限切れセッションなど)、およびグラフィカル ユーザ インターフェイスでアクセスされたページが記録されます。
Cisco IronPort スパム検疫ログ	Cisco IronPort スパム検疫ログには、Cisco IronPort スパム検疫プロセスに関連付けられたアクションが記録されます。
Cisco IronPort スパム検疫 GUI ログ	Cisco IronPort スパム検疫 GUI ログには、Cisco IronPort スパム検疫のグラフィカル ユーザ インターフェイスに関連付けられたアクションが記録されます。このアクションには、たとえば、グラフィカル ユーザ インターフェイスからの検疫の設定、エンドユーザ認証、エンドユーザのアクション (電子メールの解放など) が含まれます。
Cisco IronPort テキストメール ログ	テキスト メール ログには、電子メール システムの動作 (メッセージの受信、メッセージの配信試行、接続の開始と終了、メッセージのバウンスなど) に関する情報が記録されます。 メール ログに添付ファイル名が含まれる場合に関する重要な情報については、「 Security Management アプライアンスでの中央集中型電子メール トラッキングのイネーブル化とディセーブル化」(P.3-6) および「 トラッキング サービスの概要 」(P.6-1) を参照してください。
NTP ログ	NTP ログには、アプライアンスと任意の設定済みネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバとの通信が記録されます。NTP サーバを設定する方法については、「 システム時刻の設定 」(P.12-105) を参照してください。
レポートینگ ログ	レポートینگ ログには、中央集中型レポートینگ サービスのプロセスに関連付けられたアクションが記録されます。

表 13-1 ログタイプ (続き)

ログタイプ	説明
レポーティングクエリーログ	レポーティングクエリーログには、アプライアンスで実行された、レポーティングクエリーに関連付けられたアクションが記録されます。
セーフリスト/ブロックリストログ	セーフリスト/ブロックリストログには、セーフリスト/ブロックリストの設定およびデータベースに関するデータが記録されます。
SMA ログ	SMA ログには、一般的な Security Management アプライアンス プロセスに関連付けられたアクションが記録されます。中央集中型レポーティング、中央集中型トラッキング、Cisco IronPort スпам検疫サービスのプロセスは含まれません。
ステータス ログ	ステータス ログには、status detail や dnsstatus などの CLI ステータス コマンドで検出されたシステム統計情報が記録されます。記録期間は、logconfig の setup サブコマンドを使用して設定します。ステータス ログでレポートされるカウンタまたはレートは、前回カウンタがリセットされた時点からの値です。
システム ログ	システム ログには、ブート情報、DNS ステータス情報、およびユーザが commit コマンドを使用して入力したコメントが記録されます。システム ログは、アプライアンスの状態のトラブルシューティングに役立ちます。
トラッキング ログ	トラッキング ログには、トラッキング サービスのプロセスに関連付けられたアクションが記録されます。トラッキング ログは、メール ログのサブセットになっています。

ログ タイプの比較

表 13-2 に、各ログ タイプの特徴をまとめます。

表 13-2 ログ タイプの比較

	次の情報を格納										
	トランザクション	ステータス	テキストとして記録	バイナリとして記録	ヘッダーロギング	定期的なステータス情報	メッセージ受信情報	配信情報	個々のハードバウンス	個々のソフトウェアバウンス	設定情報
コンフィギュレーション履歴ログ	•		•								•
CLI 監査ログ	•		•			•					
FTP サーバログ	•		•			•					
HTTP ログ	•		•			•					
Cisco IronPort スпам検査	•		•			•					
Cisco IronPort スпам検査 GUI	•		•			•					
Cisco IronPort テキストメール ログ	•		•	•	•	•	•	•	•	•	
NTP ログ	•		•			•					
レポーティング ログ	•		•			•					
レポーティング クエリー ログ	•		•			•					
セーフリスト/ブロックリスト ログ	•		•			•					
SMA ログ	•		•			•					
ステータス ログ		•	•			•					
システム ログ	•		•			•					
トラッキング ログ	•			•	•		•	•	•	•	

ログの取得

ログ ファイルは、表 13-3 に示すファイル転送プロトコルを使用して取得できません。プロトコルは、グラフィカル ユーザ インターフェイスでサブスクリプションを作成または編集するときに設定するか、CLI の `logconfig` コマンドを使用して設定します。

表 13-3 ログ転送プロトコル

FTP Poll	このタイプのファイル転送では、リモート FTP クライアントは管理者レベルまたはオペレータ レベルのユーザのユーザ名およびパスワードを使用して、Cisco IronPort アプライアンスにアクセスし、ログ ファイルを取得します。FTP ポーリング方式を使用するようにログ サブスクリプションを設定する場合は、保有するログ ファイルの最大数を指定する必要があります。最大数に達すると、最も古いファイルが削除されます。
FTP Push	このタイプのファイル転送では、Cisco IronPort アプライアンスがリモート コンピュータの FTP サーバに、定期的にログ ファイルをプッシュします。サブスクリプションには、ユーザ名、パスワード、およびリモート コンピュータ上の宛先ディレクトリが必要です。ログ ファイルは、設定されたロールオーバー スケジュールに基づいて転送されます。
SCP Push	このタイプのファイル転送では、Cisco IronPort アプライアンスがリモート コンピュータの SCP サーバに、定期的にログ ファイルをプッシュします。この方法には、SSH1 または SSH2 プロトコルを使用するリモート コンピュータ上の SSH SCP サーバが必要です。サブスクリプションには、ユーザ名、SSH キー、およびリモート コンピュータ上の宛先ディレクトリが必要です。ログ ファイルは、設定されたロールオーバー スケジュールに基づいて転送されます。
syslog プッシュ	このタイプのファイル転送では、Cisco IronPort アプライアンスがリモート Syslog サーバにログ メッセージを送信します。この方式は、RFC 3164 に準拠しています。Syslog サーバのホスト名を指定し、ログの送信に UDP または TCP を使用する必要があります。使用されるポートは 514 です。ログのファシリティは選択できますが、ログ タイプのデフォルトがドロップダウン メニューであらかじめ選択されています。syslog プッシュを使用して転送できるのは、テキストベースのログだけです。

ファイル名およびディレクトリ構造

AsyncOS は、ログ サブスクリプションで指定されているログ名に基づいて各ログ サブスクリプションのディレクトリを作成します。ディレクトリ内のログのファイル名は、ログ サブスクリプションで指定されているファイル名、ログ ファイルが開始された時点のタイムスタンプ、および単一文字のステータスコードで構成されます。次の例で、ディレクトリとファイル名の規則を示します。

```
/<Log_Name>/<Log_FileName>.<timestamp>.<statusCode>
```

ステータス コードは、.c (「current (現在)」の意味)、または .s (「saved (保存済み)」の意味) です。転送できるのは、保存済みステータスのログ ファイルだけです。

ログのロールオーバーおよび転送スケジュール

ログ サブスクリプションは、ログを作成し、最大ファイル サイズおよび最大時間の設定制限に基づいてログ ファイルをロールオーバー (転送) します。いずれかの制限に達すると、ログ ファイルはロールオーバーされます。FTP ポーリング転送メカニズムに基づいたログ サブスクリプションでは、ファイルが作成されると、それらのファイルが取得されるか、システムでログ ファイル用にさらにスペースが必要になるまで、Cisco IronPort アプライアンスの FTP ディレクトリにそれらのファイルが保存されます。

デフォルトでイネーブルになるログ

Security Management アプライアンスは、次のログ サブスクリプションがイネーブルになった状態で事前設定されています。

表 13-4 事前設定されているログ サブスクリプション

ログ名	ログ タイプ	取得方法
cli_logs	CLI 監査ログ	FTP Poll
euq_logs	Cisco IronPort スпам検疫ログ	FTP Poll
euqgui_logs	Cisco IronPort スпам検疫 GUI ログ	FTP Poll
gui_logs	HTTP ログ	FTP Poll
mail_logs	Cisco IronPort テキスト メール ログ	FTP Poll
reportd_logs	レポーティング ログ	FTP Poll
reportqueryd_logs	レポーティング クエリー ログ	FTP Poll
slbld_logs	セーフリスト/ブロックリスト ログ	FTP Poll
smad_logs	SMA ログ	FTP Poll

表 13-4 事前設定されているログ サブスクリプション (続き)

ログ名	ログ タイプ	取得方法
system_logs	システム ログ	FTP Poll
trackerd_logs	トラッキング ログ	FTP Poll

事前定義されているすべてのログ サブスクリプションでは、ログ レベルが **Information** に設定されています。ログ レベルの詳細については、「[ログ レベルの設定](#)」(P.13-38) を参照してください。

適用されているライセンス キーによっては、追加のログ サブスクリプションを設定できます。ログ サブスクリプションの作成および編集については、「[ログ サブスクリプション](#)」(P.13-37) を参照してください。

ログの特徴

ここでは、次のログ タイプについて説明します。

- 「[コンフィギュレーション履歴ログの使用](#)」(P.13-9)
- 「[CLI 監査ログの使用](#)」(P.13-11)
- 「[FTP サーバ ログの使用](#)」(P.13-12)
- 「[HTTP ログの使用](#)」(P.13-13)
- 「[Cisco IronPort スпам検疫ログの使用](#)」(P.13-14)
- 「[Cisco IronPort スпам検疫 GUI ログの使用](#)」(P.13-15)
- 「[Cisco IronPort テキスト メール ログの使用](#)」(P.13-15)
- 「[NTP ログの使用](#)」(P.13-26)
- 「[レポートイング ログの使用](#)」(P.13-27)
- 「[レポートイング クエリー ログの使用](#)」(P.13-28)
- 「[セーフリスト/ブロックリスト ログの使用](#)」(P.13-30)
- 「[SMA ログの使用](#)」(P.13-31)
- 「[ステータス ログの使用](#)」(P.13-32)
- 「[システム ログの使用](#)」(P.13-35)
- 「[トラッキング ログについて](#)」(P.13-36)

ログ ファイル内のタイムスタンプ

次のログ ファイルには、ログ自体の開始日と終了日、AsyncOS のバージョン、および GMT オフセット（ログの開始時からの秒数）が含まれています。

- メール ログ
- セーフリスト/ブロックリスト ログ
- システム ログ

コンフィギュレーション履歴ログの使用

コンフィギュレーション履歴ログは、コンフィギュレーション ファイルと、ユーザ名、ユーザが行った設定変更の説明、ユーザが変更をコミットしたときに入力したコメントをリストする追加のセクションで構成されています。ユーザが変更をコミットするたびに、変更後のコンフィギュレーション ファイルを含む新しいログが作成されます。

コンフィギュレーション履歴ログの例

次のコンフィギュレーション履歴ログの例は、システムにログインできるローカル ユーザを定義するテーブルに、ユーザ (admin) がゲスト ユーザを追加したことを示しています。

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
```

```
<!DOCTYPE config SYSTEM "config.dtd">
```

```
<!--
```

```
XML generated by configuration change.
```

```
Change comment: added guest user
```

```
User: admin
```

```
Configuration are described as:
```

```
This table defines which local users are allowed to log into the system.
```

```
Product: Cisco IronPort M160 Messaging Gateway(tm) Appliance

Model Number: M160

Version: 6.7.0-231

Serial Number: 000000000ABC-D000000

Number of CPUs: 1

Memory (GB): 4

Current Time: Thu Mar 26 05:34:36 2009

Feature "Cisco IronPort Centralized Configuration Manager": Quantity =
10, Time Remaining = "25 days"

Feature "Centralized Reporting": Quantity = 10, Time Remaining = "9
days"

Feature "Centralized Tracking": Quantity = 10, Time Remaining = "30
days"

Feature "Centralized Spam Quarantine": Quantity = 10, Time Remaining =
"30 days"

Feature "Receiving": Quantity = 1, Time Remaining = "Perpetual"

-->

<config>
```

CLI 監査ログの使用

表 13-5 に、CLI 監査ログに記録される統計情報を示します。

表 13-5 CLI 監査ログの統計情報

統計	説明
タイムスタンプ	バイトが送信された時刻。
PID	コマンドが入力された特定の CLI セッションのプロセス ID。
メッセージ	メッセージは、入力された CLI コマンド、CLI 出力（メニュー、リストなど）、および表示されるプロンプトで構成されます。

CLI 監査ログの例

次の CLI 監査ログの例は、who および textconfig CLI コマンドが入力された PID 16434 の情報を示しています。

```
Thu Sep 9 14:35:55 2004 Info: PID 16434: User admin entered 'who';
prompt was '¥nmail3.example.com> '
```

```
Thu Sep 9 14:37:12 2004 Info: PID 16434: User admin entered
'textconfig'; prompt was '¥nUsername Login Time Idle Time Remote Host
What¥n=====
11AM 3m 45s 10.1.3.14 tail¥nadmin 02:32PM 0s
10.1.3.14 cli¥nmail3.example.com> '
```

```
Thu Sep 9 14:37:18 2004 Info: PID 16434: User admin entered ''; prompt
was '¥nThere are no text resources currently defined.¥n¥n¥nChoose the
operation you want to perform:¥n- NEW - Create a new text resource.¥n-
IMPORT - Import a text resource from a file.¥n[]> '
```

FTP サーバ ログの使用

表 13-6 に、FTP サーバ ログに記録される統計情報を示します。

表 13-6 FTP サーバ ログの統計情報

統計	説明
タイムスタンプ	バイトが送信された時刻。
ID	接続 ID。FTP 接続ごとの別個の ID。
メッセージ	ログ エントリのメッセージセクションは、ログファイルのステータス情報、または FTP 接続情報（ログイン、アップロード、ダウンロード、ログアウトなど）になります。

FTP サーバ ログの例

次の FTP サーバ ログの例には、接続 (ID:1) が記録されています。着信接続の IP アドレスのほか、アクティビティ（ファイルのアップロードとダウンロード）およびログアウトが示されています。

```

Wed Sep  8 18:03:06 2004 Info: Begin Logfile

Wed Sep  8 18:03:06 2004 Info: Version: 4.0.0-206 SN:
00065BF3BA6D-9WFWC21

Wed Sep  8 18:03:06 2004 Info: Time offset from UTC: 0 seconds

Wed Sep  8 18:03:06 2004 Info: System is coming up

Fri Sep 10 08:07:32 2004 Info: Time offset from UTC: -25200 seconds

Fri Sep 10 08:07:32 2004 Info: ID:1 Connection from 10.1.3.14 on
172.19.0.86

Fri Sep 10 08:07:38 2004 Info: ID:1 User admin login SUCCESS

Fri Sep 10 08:08:46 2004 Info: ID:1 Upload wording.txt 20 bytes

Fri Sep 10 08:08:57 2004 Info: ID:1 Download words.txt 1191 bytes

Fri Sep 10 08:09:06 2004 Info: ID:1 User admin logout

```

HTTP ログの使用

表 13-7 に、HTTP ログに記録される統計情報を示します。

表 13-7 HTTP ログに記録される統計情報

統計	説明
タイムスタンプ	バイトが送信された時刻。
ID	セッション ID。
req	接続元マシンの IP アドレス。
ユーザ	接続元ユーザのユーザ名。
メッセージ	実行されたアクションに関する情報。GET コマンド、POST コマンド、またはシステム ステータスなどが含まれる場合があります。

HTTP ログの例

次の HTTP ログの例は、管理者ユーザとグラフィカル ユーザ インターフェイスとの対話（システム セットアップ ウィザードの実行など）を示しています。

```
Wed Sep  8 18:17:23 2004 Info: http service on 192.168.0.1:80 redirecting
to https port 443

Wed Sep  8 18:17:23 2004 Info: http service listening on 192.168.0.1:80

Wed Sep  8 18:17:23 2004 Info: https service listening on 192.168.0.1:443

Wed Sep  8 11:17:24 2004 Info: Time offset from UTC: -25200 seconds

Wed Sep  8 11:17:24 2004 Info: req:10.10.10.14 user:admin
id:iaCkEh2h5rZknQarAecg POST /system_administration/system_setup_wizard
HTTP/1.1 303

Wed Sep  8 11:17:25 2004 Info: req:10.10.10.14 user:admin
id:iaCkEh2h5rZknQarAecg GET /system_administration/ssw_done HTTP/1.1 200

Wed Sep  8 11:18:45 2004 Info: req:10.10.10.14 user:admin
id:iaCkEh2h5rZknQarAecg GET /monitor/incoming_mail_overview HTTP/1.1 200
```

```
Wed Sep 8 11:18:45 2004 Info: req:10.10.10.14 user:admin
id:iaCkEh2h5rZknQarAecg GET
/monitor/mail_flow_graph?injector=&width=365&interval=0&type=recipientsin
&height=190 HTTP/1.1 200
```

```
Wed Sep 8 11:18:46 2004 Info: req:10.10.10.14 user:admin
id:iaCkEh2h5rZknQarAecg GET
/monitor/classification_graph?injector=&width=325&interval=0&type=recipie
ntsin&height=190 HTTP/1.1 200
```

```
Wed Sep 8 11:18:49 2004 Info: req:10.10.10.14 user:admin
id:iaCkEh2h5rZknQarAecg GET /monitor/quarantines HTTP/1.1 200
```

Cisco IronPort スпам検疫ログの使用

表 13-8 に、Cisco IronPort スпам検疫ログに記録される統計情報を示します。

表 13-8 Cisco IronPort スпам検疫ログの統計情報

統計	説明
タイムスタンプ	バイトが送信された時刻。
メッセージ	メッセージは、実行されたアクション（メッセージの検疫、検疫エリアからの解放など）で構成されます。

Cisco IronPort スпам検疫ログの例

次のログの例は、検疫から `admin@example.com` に 2 個のメッセージ（MID 8298624 と MID 8298625）が解放されたことを示しています。

```
Mon Aug 14 21:41:47 2006 Info: ISQ: Releasing MID [8298624, 8298625] for
all
```

```
Mon Aug 14 21:41:47 2006 Info: ISQ: Delivering released MID 8298624
(skipping work queue)
```

```
Mon Aug 14 21:41:47 2006 Info: ISQ: Released MID 8298624 to
admin@example.com
```

```
Mon Aug 14 21:41:47 2006 Info: ISQ: Delivering released MID 8298625
(skipping work queue)
```

```
Mon Aug 14 21:41:47 2006 Info: ISQ: Released MID8298625 to
admin@example.com
```

Cisco IronPort スпам検疫 GUI ログの使用

表 13-9 に、Cisco IronPort スпам検疫 GUI ログに記録される統計情報を示します。

表 13-9 Cisco IronPort スпам検疫 GUI ログの統計情報

統計	説明
タイムスタンプ	バイトが送信された時刻。
メッセージ	メッセージは、ユーザ認証など、実行されたアクションで構成されます。

Cisco IronPort スпам検疫 GUI ログの例

次のログの例は、成功した認証、ログイン、およびログアウトを示しています。

表 13-10 Cisco IronPort スпам検疫 GUI ログの例

```
Fri Aug 11 22:05:28 2006 Info: ISQ: Serving HTTP on 192.168.0.1, port 82
Fri Aug 11 22:05:29 2006 Info: ISQ: Serving HTTPS on 192.168.0.1, port 83
Fri Aug 11 22:08:35 2006 Info: Authentication OK, user admin
Fri Aug 11 22:08:35 2006 Info: logout:- user:pqufOtL6vyI5StCqhCfO
session:10.251.23.228
Fri Aug 11 22:08:35 2006 Info: login:admin user:pqufOtL6vyI5StCqhCfO
session:10.251.23.228
Fri Aug 11 22:08:44 2006 Info: Authentication OK, user admin
```

Cisco IronPort テキスト メール ログの使用

これらのログには、電子メールの受信、電子メールの配信、およびバウンスの詳細が記録されます。ステータス情報も、1分ごとにメール ログに書き込まれます。これらのログは、特定のメッセージの配信を理解し、システム パフォーマンスを分析するうえで有益な情報源となります。

これらのログに、特別な設定は必要ありません。ただし、添付ファイル名を表示するには、適切なシステムの設定が必要です。添付ファイル名は、常に記録されるわけではありません。「[Security Management アプライアンスでの中央集中型電子メールトラッキングのイネーブル化とディセーブル化](#)」(P.3-6) および「[トラッキングサービスの概要](#)」(P.6-1) を参照してください。

表 13-11 に、テキスト メール ログに表示される情報を示します。

表 13-11 テキスト メール ログの統計情報

統計	説明
ICID	Injection Connection ID (インジェクション接続 ID)。システムに対する個々の SMTP 接続を表す数値 ID です。システムへの 1 つの SMTP 接続で、単一のメッセージまたは多数のメッセージを送信できます。
DCID	Delivery Connection ID (配信接続 ID)。別のサーバに対する個々の SMTP 接続を表す数値 ID であり、この接続で 1 個から数千個のメッセージが配信されます。1 つのメッセージ送信で一部または全部の RID が一緒に配信されます。
RCID	RPC Connection ID (RPC 接続 ID)。Cisco IronPort スпам検疫に対する個々の RPC 接続を表す数値 ID です。この ID を使用して、Cisco IronPort スпам検疫との間で送受信されるメッセージを追跡します。
MID	メッセージ ID。この ID を使用して、メッセージのフローをログで追跡します。
RID	受信者 ID。各メッセージ受信者には、ID が割り当てられます。
New	新規の接続が開始されました。
Start	新規のメッセージが開始されました。

例

ログ ファイルを解釈するためのガイドとして、次のサンプルを使用してください。



(注) ログファイルの各行には、番号が割り当てられません。ここでは、単にサンプル用として番号が割り当てられています。

表 13-12 テキスト メール ログの詳細

1	Mon Apr 17 19:56:22 2003 Info: New SMTP ICID 5 interface Management (10.1.1.1) address 10.1.1.209 reverse dns host remotehost.com verified yes
2	Mon Apr 17 19:57:20 2003 Info: Start MID 6 ICID 5
3	Mon Apr 17 19:57:20 2003 Info: MID 6 ICID 5 From: <sender@remotehost.com>
4	Mon Apr 17 19:58:06 2003 Info: MID 6 ICID 5 RID 0 To: <mary@yourdomain.com>
5	Mon Apr 17 19:59:52 2003 Info: MID 6 ready 100 bytes from <sender@remotehost.com>
6	Mon Apr 17 19:59:59 2003 Info: ICID 5 close
7	Mon Mar 31 20:10:58 2003 Info: New SMTP DCID 8 interface 192.168.42.42 address 10.5.3.25
8	Mon Mar 31 20:10:58 2003 Info: Delivery start DCID 8 MID 6 to RID [0]
9	Mon Mar 31 20:10:58 2003 Info: Message done DCID 8 MID 6 to RID [0]
10	Mon Mar 31 20:11:03 2003 Info: DCID 8 close

前述のログファイルを読み取るためのガイドとして、表 13-13 を使用してください。

表 13-13 テキスト メール ログの例の詳細

行番号	説明
1	システムに対して新しい接続が開始され、インジェクション ID (ICID) 「5」が割り当てられました。この接続は管理 IP インターフェイスで受信され、10.1.1.209 のリモート ホストで開始されました。
2	クライアントから MAIL FROM コマンドが実行された後、メッセージにメッセージ ID (MID) 「6」が割り当てられました。
3	送信者アドレスが識別され、受け入れられます。
4	受信者が識別され、受信者 ID (RID) 「0」が割り当てられました。

表 13-13 テキスト メール ログの例の詳細 (続き)

行番号	説明
5	MID 5 が受け入れられ、ディスクに書き込まれ、確認応答されました。
6	受信が成功し、受信接続が終了しました。
7	メッセージ配信プロセスが開始されました。192.168.42.42 から 10.5.3.25 への配信に、配信接続 ID (DCID) 「8」が割り当てられました。
8	RID 「0」へのメッセージ配信が開始されました。
9	RID 「0」への MID 6 の配信に成功しました。
10	配信接続が終了しました。

テキスト メール ログ エントリの例

次の例で、さまざまなケースに基づくログ エントリを示します。

メッセージ受信

1 人の受信者に対するメッセージが Cisco IronPort アプライアンスにインジェクトされます。メッセージは正常に配信されます。

```
Wed Jun 16 21:42:34 2004 Info: New SMTP ICID 282204970 interface
mail.example.com (1.2.3.4) address 2.3.4.5 reverse dns host unknown
verified no
```

```
Wed Jun 16 21:42:34 2004 Info: ICID 282204970 SBRS None
```

```
Wed Jun 16 21:42:35 2004 Info: Start MID 200257070 ICID 282204970
```

```
Wed Jun 16 21:42:35 2004 Info: MID 200257070 ICID 282204970 From:
<someone@foo.com>
```

```
Wed Jun 16 21:42:36 2004 Info: MID 200257070 ICID 282204970 RID 0 To:
<user@example.com>
```

```
Wed Jun 16 21:42:38 2004 Info: MID 200257070 Message-ID
'<37gva9$5uvbhe@mail.example.com>'
```

```
Wed Jun 16 21:42:38 2004 Info: MID 200257070 Subject 'Hello'
```

```
Wed Jun 16 21:42:38 2004 Info: MID 200257070 ready 24663 bytes from
<someone@foo.com>

Wed Jun 16 21:42:38 2004 Info: MID 200257070 antivirus negative

Wed Jun 16 21:42:38 2004 Info: MID 200257070 queued for delivery

Wed Jun 16 21:42:38 2004 Info: New SMTP DCID 2386069 interface 1.2.3.4
address 1.2.3.4

Wed Jun 16 21:42:38 2004 Info: Delivery start DCID 2386069 MID 200257070
to RID [0]

Wed Jun 16 21:42:38 2004 Info: ICID 282204970 close

Wed Jun 16 21:42:38 2004 Info: Message done DCID 2386069 MID 200257070 to
RID [0] [('X-SBRS', 'None')]

Wed Jun 16 21:42:38 2004 Info: MID 200257070 RID [0] Response 2.6.0
<37gva9$5uvbhe@mail.example.com> Queued mail for delivery

Wed Jun 16 21:42:43 2004 Info: DCID 2386069 close
```

正常なメッセージ配信の例

```
Mon Mar 31 20:10:58 2003 Info: New SMTP DCID 5 interface 172.19.0.11
address 63.251.108.110

Mon Mar 31 20:10:58 2003 Info: Delivery start DCID 5 MID 4 to RID [0]

Mon Mar 31 20:10:58 2003 Info: Message done DCID 5 MID 4 to RID [0]

Mon Mar 31 20:11:03 2003 Info: DCID 5 close
```

失敗したメッセージ配信（ハード バウンス）

2 人の受信者が指定されたメッセージが Cisco IronPort アプライアンスにインジェクトされます。配信時に、宛先ホストが 5XX エラーを返しました。これは、メッセージをどちらの受信者にも配信できなかったことを示します。Cisco IronPort アプライアンスは送信者に通知し、キューから受信者を削除します。

```
Mon Mar 31 20:00:23 2003 Info: New SMTP DCID 3 interface 172.19.0.11
address 64.81.204.225
```

```
Mon Mar 31 20:00:23 2003 Info: Delivery start DCID 3 MID 4 to RID [0, 1]
```

```
Mon Mar 31 20:00:27 2003 Info: Bounced: DCID 3 MID 4 to RID 0 - 5.1.0 -
Unknown address error ('550', ['<george@yourdomain.com>... Relaying
denied']) []
```

```
Mon Mar 31 20:00:27 2003 Info: Bounced: DCID 3 MID 4 to RID 1 - 5.1.0 -
Unknown address error ('550', ['<jane@yourdomain.com>... Relaying
denied']) []
```

```
Mon Mar 31 20:00:32 2003 Info: DCID 3 close
```

最終的に正常に配信されるソフト バウンスの例

メッセージが Cisco IronPort アプライアンスにインジェクトされます。最初の配信試行で、メッセージはソフト バウンスして、その後の配信キューに入れられます。2 回目の試行でメッセージは正常に配信されます。

```
Mon Mar 31 20:10:58 2003 Info: New SMTP DCID 5 interface 172.19.0.11
address 63.251.108.110
```

```
Mon Mar 31 20:00:23 2003 Info: Delivery start DCID 3 MID 4 to RID [0, 1]
```

```
Mon Mar 31 20:00:23 2003 Info: Delayed: DCID 5 MID 4 to RID 0 - 4.1.0 -
Unknown address error ('466', ['Mailbox temporarily full.']) []
```

```
Mon Mar 31 20:00:23 2003 Info: Message 4 to RID [0] pending till Mon Mar
31 20:01:23 2003
```

```
Mon Mar 31 20:01:28 2003 Info: DCID 5 close
```

```
Mon Mar 31 20:01:28 2003 Info: New SMTP DCID 16 interface PublicNet
address 172.17.0.113

Mon Mar 31 20:01:28 2003 Info: Delivery start DCID 16 MID 4 to RID [0]

Mon Mar 31 20:01:28 2003 Info: Message done DCID 16 MID 4 to RID [0]

Mon Mar 31 20:01:33 2003 Info: DCID 16 close
```

メッセージ スキャン結果 (scanconfig)

次のプロンプトで、メッセージの構成要素を分解できない場合（添付ファイルを削除する場合）の動作を scanconfig コマンドを使用して決定した場合、

```
If a message could not be deconstructed into its component parts in order
to remove specified attachments, the system should:
```

1. Deliver
2. Bounce
3. Drop

```
[3]>
```

メール ログに以下が表示されます。

scanconfig で、メッセージを分解できない場合に配信するように設定した場合。

```
Tue Aug 3 16:36:29 2004 Info: MID 256 ICID 44784 From: <test@virus.org>

Tue Aug 3 16:36:29 2004 Info: MID 256 ICID 44784 RID 0 To:
<joe@example.com>

Tue Aug 3 16:36:29 2004 Info: MID 256 Message-ID '<137398.@virus.org>'

Tue Aug 3 16:36:29 2004 Info: MID 256 Subject 'Virus Scanner Test #22'

Tue Aug 3 16:36:29 2004 Info: MID 256 ready 1627 bytes from
<test@virus.org>
```

```
Tue Aug 3 16:36:29 2004 Warning: MID 256, Message Scanning Problem:  
Continuation line seen before first header
```

```
Tue Aug 3 16:36:29 2004 Info: ICID 44784 close
```

```
Tue Aug 3 16:36:29 2004 Info: MID 256 antivirus positive 'EICAR-AV-Test'
```

```
Tue Aug 3 16:36:29 2004 Info: Message aborted MID 256 Dropped by  
antivirus
```

```
Tue Aug 3 16:36:29 2004 Info: Message finished MID 256 done
```

scanconfig で、メッセージを分解できない場合にドロップするように設定した場合。

```
Tue Aug 3 16:38:53 2004 Info: Start MID 257 ICID 44785
```

```
Tue Aug 3 16:38:53 2004 Info: MID 257 ICID 44785 From: test@virus.org
```

```
Tue Aug 3 16:38:53 2004 Info: MID 257 ICID 44785 RID 0 To:  
<joe@example.com>
```

```
Tue Aug 3 16:38:53 2004 Info: MID 257 Message-ID '<392912.@virus.org>'
```

```
Tue Aug 3 16:38:53 2004 Info: MID 25781 Subject 'Virus Scanner Test #22'
```

```
Tue Aug 3 16:38:53 2004 Info: MID 257 ready 1627 bytes from  
<test@virus.org>
```

```
Tue Aug 3 16:38:53 2004 Warning: MID 257, Message Scanning Problem:  
Continuation line seen before first header
```

```
Tue Aug 3 16:38:53 2004 Info: Message aborted MID 25781 Dropped by filter  
'drop_zip_c'
```

```
Tue Aug 3 16:38:53 2004 Info: Message finished MID 257 done
```

```
Tue Aug 3 16:38:53 2004 Info: ICID 44785 close
```

添付ファイルのあるメッセージ

この例では、添付ファイル名の識別をイネーブルにするように、条件「Message Body Contains」を含むコンテンツ フィルタが設定されています。

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: New SMTP ICID 28 interface Management
(192.0.2.10)
address 224.0.0.10 reverse dns host test.com verified yes
```

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: ICID 28 ACCEPT SG UNKNOWNLIST match
sbrs[-1.0:10.0]
SBRS 0.0
```

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: Start MID 44 ICID 28
```

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: MID 44 ICID 28 From:
<sender1@example.com>
```

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: MID 44 ICID 28 RID 0 To:
<recipient1@example.org>
```

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: MID 44 Message-ID
'<000001cba32e$f24ff2e0$d6efd8a0$@com>'
```

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: MID 44 Subject 'Message 001'
```

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: MID 44 ready 240129 bytes from
<sender1@example.com>
```

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: MID 44 matched all recipients for
per-recipient
policy DEFAULT in the inbound table
```

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: ICID 28 close
```

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: MID 44 interim verdict using engine:
CASE
spam negative
```

```
Sat Apr 23 05:05:42 2011 Info: MID 44 using engine: CASE spam
negative
```

```
Sat Apr 23 05:05:43 2011 Info: MID 44 attachment 'Banner.gif'
```

```
Sat Apr 23 05:05:43 2011 Info: MID 44 attachment
'=D1=82=D0=B5=D1=81=D1=82.rst'
```

```
Sat Apr 23 05:05:43 2011 Info: MID 44 attachment
'Test=20Attachment.docx'
```

```
Sat Apr 23 05:05:43 2011 Info: MID 44 queued for delivery
```

3 つの添付ファイルの 2 番目が **Unicode** であることに注意してください。**Unicode** を表示できない端末では、このような添付ファイルは **quoted-printable** 形式で表示されます。

生成またはリライトされたメッセージ

リライト/リダイレクトアクションなどの一部の機能 (alt-rcpt-to フィルタ、アンチスパム RCPT リライト、bcc() アクション、アンチウイルス リダイレクションなど) によって、新しいメッセージが作成されます。ログに目を通して結果を確認し、必要に応じて MID や、場合によっては DCID を追加します。次のようなエントリが可能です。

```
Tue Jun 1 20:02:16 2004 Info: MID 14 generated based on MID 13 by bcc
filter 'nonetest'
```

または

```
Tue Jan 6 15:03:18 2004 Info: MID 2 rewritten to 3 by antisпам
```

```
Fri May 14 20:44:43 2004 Info: MID 6 rewritten to 7 by alt-rcpt-to-filter
filter 'testfilt'
```



(注) 「Rewritten」 エントリは、新しい MID の使用を示すログの行の後に表示されま
す。

Cisco IronPort スпам検疫へのメッセージの送信

メッセージを検疫エリアに送信すると、メール ログでは、RPC 接続を識別する RPC 接続 ID (RCID) を使用して、検疫エリアとの間の移動が追跡されます。次のメール ログでは、メッセージにスパムのタグが付けられ、Cisco IronPort スпам検疫に送信されています。

```
Wed Feb 14 12:11:40 2007 Info: Start MID 2317877 ICID 15726925
```

```
Wed Feb 14 12:11:40 2007 Info: MID 2317877 ICID 15726925 From:
<HLD@chasehf.bfi0.com>
```

```
Wed Feb 14 12:11:40 2007 Info: MID 2317877 ICID 15726925 RID 0 To:
<stevel@healthtrust.org>
```

```
Wed Feb 14 12:11:40 2007 Info: MID 2317877 Message-ID
'<W1TH05606E5811BEA0734309D4BAF0.323.14460.pemailer44.DumpShot.2@email.
chase.com>'
```

```
Wed Feb 14 12:11:40 2007 Info: MID 2317877 Subject 'Envision your dream
home - Now make it a reality'
```

```
Wed Feb 14 12:11:40 2007 Info: MID 2317877 ready 15731 bytes from
<HLD@chasehf.bfi0.com>
```

```
Wed Feb 14 12:11:40 2007 Info: MID 2317877 matched all recipients for
per-recipient policy DEFAULT in the inbound table
```

```
Wed Feb 14 12:11:41 2007 Info: MID 2317877 using engine: CASE spam
suspect
```

```
Wed Feb 14 12:11:41 2007 Info: EUQ: Tagging MID 2317877 for quarantine
```

```
Wed Feb 14 12:11:41 2007 Info: MID 2317877 antivirus negative
```

```
Wed Feb 14 12:11:41 2007 Info: MID 2317877 queued for delivery
```

```
Wed Feb 14 12:11:44 2007 Info: RPC Delivery start RCID 756814 MID
2317877 to local Cisco IronPort Spam Quarantine
```

```
Wed Feb 14 12:11:45 2007 Info: EUQ: Quarantined MID 2317877
```

```
Wed Feb 14 12:11:45 2007 Info: RPC Message done RCID 756814 MID 2317877
```

```
Wed Feb 14 12:11:45 2007 Info: Message finished MID 2317877 done
```

NTP ログの使用

表 13-14 に、NTP ログに記録される統計情報を示します。

表 13-14 NTP ログに記録される統計情報

統計	説明
タイムスタンプ	バイトが送信された時刻。
メッセージ	メッセージは、サーバへの簡易ネットワーク タイム プロトコル (SNTP) クエリーまたは adjust: メッセージで構成されます。

NTP ログの例

次の NTP ログの例は、アプライアンスから NTP ホストへの 2 度のポーリングを示しています。

```
Thu Sep 9 07:36:39 2004 Info: sntp query host 10.1.1.23 delay 653 offset -652
```

```
Thu Sep 9 07:36:39 2004 Info: adjust: time_const: 8 offset: -652us next_poll: 4096
```

```
Thu Sep 9 08:44:59 2004 Info: sntp query host 10.1.1.23 delay 642 offset -1152
```

```
Thu Sep 9 08:44:59 2004 Info: adjust: time_const: 8 offset: -1152us next_poll: 4096
```

レポートイング ログの使用

表 13-15 に、レポートイング ログに記録される統計情報を示します。

表 13-15 レポートイング ログの統計情報

統計	説明
タイムスタンプ	バイトが送信された時刻。
メッセージ	メッセージは、ユーザ認証など、実行されたアクションで構成されません。

レポートイング ログの例

次のレポートイング ログの例は、情報ログ レベルに設定されたアプライアンスを示しています。

```

Wed Oct  3 13:39:53 2007 Info: Period minute using 0 (KB)

Wed Oct  3 13:39:53 2007 Info: Period month using 1328 (KB)

Wed Oct  3 13:40:02 2007 Info: Update 2 registered appliance at
2007-10-03-13-40

Wed Oct  3 13:40:53 2007 Info: Pages found in cache: 1304596 (99%). Not
found: 1692

Wed Oct  3 13:40:53 2007 Info: Period hour using 36800 (KB)

Wed Oct  3 13:40:53 2007 Info: Period day using 2768 (KB)

Wed Oct  3 13:40:53 2007 Info: Period minute using 0 (KB)

Wed Oct  3 13:40:53 2007 Info: Period month using 1328 (KB)

Wed Oct  3 13:40:53 2007 Info: HELPER checkpointed in 0.00580507753533
seconds

Wed Oct  3 13:41:02 2007 Info: Update 2 registered appliance at
2007-10-03-13-41

```

```
Wed Oct 3 13:41:53 2007 Info: Pages found in cache: 1304704 (99%). Not
found: 1692
```

```
Wed Oct 3 13:41:53 2007 Info: Period hour using 36800 (KB)
```

```
Wed Oct 3 13:41:53 2007 Info: Period day using 2768 (KB)
```

```
Wed Oct 3 13:41:53 2007 Info: Period minute using 0 (KB)
```

```
Wed Oct 3 13:41:53 2007 Info: Period month using 1328 (KB)
```

```
Wed Oct 3 13:42:03 2007 Info: Update 2 registered appliance at
2007-10-03-13-42
```

レポートイング クエリー ログの使用

表 13-16 に、レポートイング クエリー ログに記録される統計情報を示します。

表 13-16 レポートイング クエリー ログの統計情報

統計	説明
タイムスタンプ	バイトが送信された時刻。
メッセージ	メッセージは、ユーザ認証など、実行されたアクションで構成されま す。

レポートイング クエリー ログの例

次のレポートイング クエリー ログの例は、アプライアンスによって、2007 年 8 月 29 日から 10 月 10 日までの期間で毎日の発信メール トラフィック クエリーが実行されていることを示しています。

```
Tue Oct 2 11:30:02 2007 Info: Query: Closing interval handle 811804479.
```

```
Tue Oct 2 11:30:02 2007 Info: Query: Closing interval handle 811804480.
```

```
Tue Oct 2 11:30:02 2007 Info: Query: Closing query handle 302610228.
```

```
Tue Oct 2 11:30:02 2007 Info: Query: Merge query with handle 302610229
for ['MAIL_OUTGOING_TRAFFIC_SUMMARY.

DETECTED_SPAM', 'MAIL_OUTGOING_TRAFFIC_SUMMARY.DETECTED_VIRUS',
'MAIL_OUTGOING_TRAFFIC_SUMMARY.THREAT_CONTEN

T_FILTER', 'MAIL_OUTGOING_TRAFFIC_SUMMARY.TOTAL_CLEAN_RECIPIENTS',
'MAIL_OUTGOING_TRAFFIC_SUMMARY.TOTAL_RECI

PIENTS_PROCESSED'] for rollup period "day" with interval range 2007-08-29
to 2007-10-01 with key constraints

None sorting on ['MAIL_OUTGOING_TRAFFIC_SUMMARY.DETECTED_SPAM']
returning results from 0 to 2 sort_ascendin

g=False.

Tue Oct 2 11:30:02 2007 Info: Query: Closing query handle 302610229.

Tue Oct 2 11:30:02 2007 Info: Query: Merge query with handle 302610230
for ['MAIL_OUTGOING_TRAFFIC_SUMMARY.

TOTAL_HARD_BOUNCES',
'MAIL_OUTGOING_TRAFFIC_SUMMARY.TOTAL_RECIPIENTS_DELIVERED',
'MAIL_OUTGOING_TRAFFIC_SUMM

ARY.TOTAL_RECIPIENTS'] for rollup period "day" with interval range
2007-08-29 to 2007-10-01 with key constra

ints None sorting on ['MAIL_OUTGOING_TRAFFIC_SUMMARY.TOTAL_HARD_BOUNCES']
returning results from 0 to 2 sort

_ascending=False.

Tue Oct 2 11:30:02 2007 Info: Query: Closing query handle 302610230.
```

セーフリスト/ブロックリスト ログの使用

表 13-17 に、セーフリスト/ブロックリスト ログに記録される統計情報を示します。

表 13-17 セーフリスト/ブロックリスト ログの統計情報

統計	説明
タイムスタンプ	バイトが送信された時刻。
メッセージ	メッセージは、ユーザ認証など、実行されたアクションで構成されます。

セーフリスト/ブロックリスト ログの例

次のセーフリスト/ブロックリスト ログの例は、アプライアンスによって 2 時間ごとにデータベースのスナップショットが作成されていることを示しています。送信者がデータベースに追加された時刻も表示されます。

```
Fri Sep 28 14:22:33 2007 Info: Begin Logfile Fri Sep 28 14:22:33 2007
Info: Version: 6.0.0-425 SN: XXXXXXXXXXXXX-XXX Fri Sep 28 14:22:33 2007
Info: Time offset from UTC: 10800 seconds Fri Sep 28 14:22:33 2007 Info:
System is coming up.
```

```
Fri Sep 28 14:22:33 2007 Info: SLBL: The database snapshot has been
created.
```

```
Fri Sep 28 16:22:34 2007 Info: SLBL: The database snapshot has been
created.
```

```
Fri Sep 28 18:22:34 2007 Info: SLBL: The database snapshot has been
created.
```

```
Fri Sep 28 20:22:34 2007 Info: SLBL: The database snapshot has been
created.
```

```
Fri Sep 28 22:22:35 2007 Info: SLBL: The database snapshot has been
created.
```

.....

```

Mon Oct 1 14:16:09 2007 Info: SLBL: The database snapshot has been
created.

Mon Oct 1 14:37:39 2007 Info: SLBL: The database snapshot has been
created.

Mon Oct 1 15:31:37 2007 Warning: SLBL: Adding senders to the database
failed.

Mon Oct 1 15:32:31 2007 Warning: SLBL: Adding senders to the database
failed.

Mon Oct 1 16:37:40 2007 Info: SLBL: The database snapshot has been
created.

```

SMA ログの使用

表 13-18 に、SMA ログに記録される統計情報を示します。

表 13-18 SMA ログの統計情報

統計	説明
タイムスタンプ	バイトが送信された時刻。
メッセージ	メッセージは、ユーザ認証など、実行されたアクションで構成されます。

次の SMA ログの例は、Email Security アプライアンスからトラッキング ファイルをダウンロードする中央集中型トラッキング サービスと、Email Security アプライアンスからレポートング ファイルをダウンロードする中央集中型レポートング サービスを示しています。

```

Wed Oct 3 13:26:39 2007 Info: TRANSFER: Plugin TRACKINGPLUGIN
downloading from 172.29.0.17 - /export/tracki

```

```

ng/tracking.@20071003T202244Z_20071003T202544Z.s

```

```

Wed Oct 3 13:28:11 2007 Info: TRANSFER: Plugin TRACKINGPLUGIN
downloading from 172.29.0.15 - /export/tracki

```

```

ng/tracking.@20071003T202443Z_20071003T202743Z.s

```

```
Wed Oct 3 13:28:46 2007 Info: TRANSFER: Plugin TRACKINGPLUGIN
downloading from 172.29.0.17 - /export/tracki

ng/tracking.@20071003T202544Z_20071003T202844Z.s

Wed Oct 3 13:31:27 2007 Info: TRANSFER: Plugin TRACKINGPLUGIN
downloading from 172.29.0.15 - /export/tracki

ng/tracking.@20071003T202743Z_20071003T203043Z.s

Wed Oct 3 13:31:28 2007 Info: TRANSFER: Plugin REPORTINGPLUGIN
downloading from 172.29.0.15 - /reporting/ou

tgoing_queue/rpx.2007-10-03-20-15Z.000F1F6ECA7C-2RWDB51.v1.tgz

Wed Oct 3 13:31:53 2007 Info: TRANSFER: Plugin TRACKINGPLUGIN
downloading from 172.29.0.17 - /export/tracki

ng/tracking.@20071003T202844Z_20071003T203144Z.s

Wed Oct 3 13:32:31 2007 Info: TRANSFER: Plugin REPORTINGPLUGIN
downloading from 172.29.0.17 - /reporting/ou

tgoing_queue/rpx.2007-10-03-20-15Z.0019B9B316E4-JZ41PC1.v1.tgz

Wed Oct 3 13:34:40 2007 Info: TRANSFER: Plugin TRACKINGPLUGIN
downloading from 172.29.0.15 - /export/tracki

ng/tracking.@20071003T203043Z_20071003T203343Z.s
```

ステータス ログの使用

ステータス ログには、`status`、`status detail`、および `dnsstatus` を含む CLI ステータス コマンドで検出されたシステム統計情報が記録されます。記録期間は、`logconfig` の `setup` サブコマンドを使用して設定します。ステータス ログでレポートされるカウンタまたはレートは、前回カウンタがリセットされた時点からの値です。

ステータス ログの読み取り

表 13-19 に、ステータス ログ ラベル、およびそれと一致するシステム統計情報を示します。

表 13-19 ステータス ログの統計情報

統計	説明
CPULd	CPU 使用率。
DskIO	Disk I/O 使用率。
RAMUtil	RAM 使用率。
QKUsd	使用されているキュー (キロバイト単位)。
QKFre	空いているキュー (キロバイト単位)。
CrtMID	メッセージ ID (MID)。
CrtICID	インジェクション接続 ID (ICID)。
CRTDCID	配信接続 ID (DCID)。
InjMsg	インジェクトされたメッセージ。
InjRcp	インジェクトされた受信者。
GenBncRcp	生成されたバウンス受信者。
RejRcp	拒否された受信者。
DrpMsg	ドロップされたメッセージ。
SftBncEvt	ソフト バウンスされたイベント。
CmpRcp	完了した受信者。
HrdBncRcp	ハード バウンスされた受信者。
DnsHrdBnc	DNS ハード バウンス。
5XXHrdBnc	5XX ハード バウンス。
FltrHrdBnc	フィルタ ハード バウンス。
ExpHrdBnc	期限切れハード バウンス。
OtrHrdBnc	その他のハード バウンス。
DivRcp	配信された受信者。
DelRcp	削除された受信者。
GlbUnsbHt	グローバル配信停止リストとの一致数。
ActvRcp	アクティブ受信者。

表 13-19 ステータス ログの統計情報 (続き)

統計	説明
UnatmptRcp	未試行受信者。
AtmptRcp	試行受信者。
CrtCncln	現在の着信接続。
CrtCncOut	現在の発信接続。
DnsReq	DNS 要求。
NetReq	ネットワーク要求。
CchHit	キャッシュ ヒット。
CchMis	キャッシュ ミス。
CchEct	キャッシュ例外。
CchExp	キャッシュ期限切れ。
CPUTTm	アプリケーションが使用した合計 CPU 時間。
CPUETm	アプリケーションが開始されてからの経過時間。
MaxIO	メール プロセスに対する 1 秒あたりの最大ディスク I/O 動作。
RamUsd	割り当て済みのメモリ (バイト単位)。
SwIn	スワップインされたメモリ
SwOut	スワップアウトされたメモリ
SwPgIn	ページインされたメモリ
SwPgOut	ページアウトされたメモリ
MMLen	システム内の合計メッセージ数。
DstInMem	メモリ内の宛先オブジェクト数。
ResCon	リソース保持の tarpit 値 (大量のシステム負荷により、着信メールの受け入れがこの秒数だけ遅延します)。
WorkQ	作業キューにある現在のメッセージ数。
QuarMsgs	システム検疫にある個々のメッセージ数 (複数の検疫エリアに存在するメッセージは一度だけカウントされます)。
QuarQKUsd	システム検疫メッセージによって使用されたキロバイト数。

表 13-19 ステータス ログの統計情報 (続き)

統計	説明
LogUsd	使用されたログ パーティションの割合。
CASELd	CASE スキャンで使用された CPU の割合。
TotalLd	CPU の合計消費量。
LogAvail	ログ ファイルに使用できるディスク領域。
EuQ	Cisco IronPort スпам検疫内のメッセージ数。
EuqRls	Cisco IronPort スпам検疫解放キュー内のメッセージ数。

ステータス ログの例

```

Fri Feb 24 15:14:39 2006 Info: Status: CPULd 0 DskIO 0 RAMUtil 2 QKUsd 0
QKFre 8388608 CrtMID 19036 CrtICID 35284 CrtDCID 4861 InjMsg 13889 InjRcp
14230 GenBncRcp 12 RejRcp 6318 DrpMsg 7437 SftBncEvnt 1816 CmpRcp 6813
HrdBncRcp 18 DnsHrdBnc 2 5XXHrdBnc 15 FltrHrdBnc 0 ExpHrdBnc 1 OtrHrdBnc
0 DlvRcp 6793 DelRcp 2 GlbUnsbHt 0 ActvRcp 0 UnatmptRcp 0 AtmptRcp 0
CrtCncIn 0 CrtCncOut 0 DnsReq 143736 NetReq 224227 CchHit 469058 CchMis
504791 CchEct 15395 CchExp 55085 CPUTm 228 CPUEtm 181380 MaxIO 350
RAMUsd 21528056 MMLen 0 DstInMem 4 ResCon 0 WorkQ 0 QuarMsgs 0 QuarQKUsd
0 LogUsd 3 AVLd 0 BMLd 0 CASELd 3 TotalLd 3 LogAvail 17G EuQ 0 EuqRls 0

```

システム ログの使用

表 13-20 に、システム ログに記録される統計情報を示します。

表 13-20 システム ログの統計情報

統計	説明
タイムスタンプ	バイトが送信された時刻。
メッセージ	ログに記録されたイベント。

システム ログの例

次のシステム ログの例は、**commit** を実行したユーザの名前と入力されたコメントを含む、いくつかの **commit** エントリを示しています。

```
Wed Sep  8 18:02:45 2004 Info: Version: 6.0.0-206 SN: XXXXXXXXXXXXX-XXX

Wed Sep  8 18:02:45 2004 Info: Time offset from UTC: 0 seconds

Wed Sep  8 18:02:45 2004 Info: System is coming up

Wed Sep  8 18:02:49 2004 Info: bootstrapping DNS cache

Wed Sep  8 18:02:49 2004 Info: DNS cache bootstrapped

Wed Sep  8 18:13:30 2004 Info: PID 608: User admin commit changes:
SSW:Password

Wed Sep  8 18:17:23 2004 Info: PID 608: User admin commit changes:
Completed Web::SSW

Thu Sep  9 08:49:27 2004 Info: Time offset from UTC: -25200 seconds

Thu Sep  9 08:49:27 2004 Info: PID 1237: User admin commit changes: Added
a second CLI log for examples

Thu Sep  9 08:51:53 2004 Info: PID 1237: User admin commit changes:
Removed example CLI log.
```

トラッキング ログについて

トラッキング ログには、AsyncOS の電子メール動作に関する情報が記録されます。ログ メッセージは、メール ログに記録されたメッセージのサブセットです。

トラッキング ログは、メッセージ トラッキング データベースを作成するため、メッセージ トラッキング コンポーネントで使用されます。ログ ファイルはデータベースの作成プロセスで消費されるので、トラッキング ログは一過性のものになります。トラッキング ログの情報は、人による読み取りや解析を目的とした設計になっていません。

トラッキング ログは、リソースの効率性を保つためにバイナリ形式で記録され、転送されます。情報は、論理的にレイアウトされ、Cisco IronPort が提供するユーティリティを使用して変換した後は人による読み取りが可能になります。変換ツールは、次の URL にあります。http://tinyurl.com/3c518r

ログ サブスクリプション

ここでは、次の項目について説明します。

- 「ログ サブスクリプションの設定」 (P.13-37)
- 「GUI でのログ サブスクリプションの作成」 (P.13-39)
- 「ログインに対するグローバル設定」 (P.13-42)
- 「ログ サブスクリプションのロール オーバー」 (P.13-46)
- 「ホスト キーの設定」 (P.13-49)

ログ サブスクリプションの設定

ログ サブスクリプションによって、Cisco IronPort アプライアンスに、またはリモートに保存される個々のログ ファイルが作成されます。ログ サブスクリプションは、プッシュ（別のコンピュータに配信）またはプル（アプライアンスから取得）されます。一般に、ログ サブスクリプションには次の属性があります。

表 13-21 ログ ファイルの属性

属性	説明
Log Type	記録される情報のタイプと、ログ サブスクリプションの形式を定義します。詳細については、「ログ タイプ」 (P.13-2) を参照してください。
Name	後で参照するための、ログ サブスクリプションのわかりやすい名前。
Log Level	各ログ サブスクリプションの詳細レベル。
Retrieval Method	ログ ファイルを Cisco IronPort アプライアンスから転送するときに使用する方式。

表 13-21 ログ ファイルの属性 (続き)

属性	説明
Log Filename	ディスクに書き込むときのファイルの物理名。システムに複数の Cisco IronPort アプライアンスがある場合、ログ ファイルを生成したアプライアンスを識別できる一意のログ ファイル名を使用します。
Maximum File Size	ファイルの最大サイズ。このサイズに到達すると、ロールオーバーされます。

[Management Appliance] > [System Administration] > [Log Subscriptions] ページ (または CLI の `logconfig` コマンド) を使用して、ログ サブスクリプションを設定します。ログ タイプを入力するプロンプトが表示されます (「[ログ タイプ](#)」 (P.13-2) を参照)。ほとんどのログ タイプで、ログ サブスクリプションの [ログ レベル](#) の入力も要求されます。



(注)

コンフィギュレーション履歴ログのみ：コンフィギュレーション履歴ログからコンフィギュレーションをロードする可能性がある場合は、コンフィギュレーションにマスクされたパスワードが含まれているとロードできないことに注意してください。[Management Appliance] > [System Administration] > [Log Subscriptions] ページで、パスワードをログに含めるかどうかを尋ねるプロンプトが表示されたら、[Yes] を選択します。CLI の `logconfig` コマンドを使用する場合は、プロンプトで `y` を入力します。

ログ レベルの設定

ログ レベルによって、ログに送信される情報量が決定します。ログには、5 つの詳細レベルのいずれかを設定できます。詳細なログ レベルを設定すると、省略されたログ レベルを設定した場合と比べて、大きなログ ファイルが作成され、システム パフォーマンスに大きな影響を与えます。詳細なログ レベル設定には、省略されたログ レベル設定に含まれるすべてのメッセージと、追加のメッセージが含まれます。詳細レベルを上げるほど、システムのパフォーマンスは低下します。



(注) ログタイプごとに異なるログレベルを指定できます。

表 13-22 ログレベル

ログレベル	説明
Critical	エラーだけがログに記録されます。最も省略されたログレベル設定です。このログレベルでは、パフォーマンスおよび重要なアプライアンスのアクティビティをモニタすることはできません。ただし、詳細ログレベルのように、ログファイルがすぐに最大サイズに達することはありません。このログレベルは、 syslog レベル Alert と同等です。
Warning	すべてのシステムエラーと警告が記録されます。このログレベルでは、パフォーマンスおよび重要なアプライアンスのアクティビティをモニタすることはできません。 Critical ログレベルよりは早く、ログファイルが最大サイズに達します。このログレベルは、 syslog レベル Warning と同等です。
Information	システムの動作が逐次記録されます。たとえば、接続のオープンや配信試行が記録されます。 Information レベルは、ログに推奨される設定です。このログレベルは、 syslog レベル Info と同等です。
Debug	Information ログレベルよりも詳細な情報が記録されます。エラーをトラブルシューティングするときは、 Debug ログレベルを使用します。この設定は一時的に使用し、後でデフォルトレベルに戻します。このログレベルは、 syslog レベル Debug と同等です。
Trace	使用可能なすべての情報が記録されます。 Trace ログレベルは、開発者にのみ推奨されます。このレベルを使用すると、システムのパフォーマンスが大きく低下するので、推奨されません。このログレベルは、 syslog レベル Debug と同等です。

GUIでのログサブスクリプションの作成

ログサブスクリプションを作成するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Management Appliance] > [System Administration] > [Log Subscriptions] ページで、[Add Log Subscription] をクリックします。[New Log Subscription] ページが表示されます。

図 13-1 ログサブスクリプションの新規作成

New Log Subscription

Log Subscription	
Log Type:	Select a log type... <input type="button" value="v"/>
Log Name:	<input type="text"/> <i>(will be used to name the log directory)</i>
File Name:	<input type="text"/>
Maximum File Size:	10M <i>(Add a trailing K or M to indicate size units)</i>
Log Level:	<input type="radio"/> Critical (The least detailed setting. Only errors are logged.) <input type="radio"/> Warning (All errors and warnings created by the system.) <input checked="" type="radio"/> Information (Captures the second-by-second operations of the system. Recommended.) <input type="radio"/> Debug (More specific data are logged to help debug specific problems.) <input type="radio"/> Trace (The most detailed setting, all information that can be is logged. Recommended for developers only.)
Retrieval Method:	<input checked="" type="radio"/> FTP on test28.eng Maximum Number of Files: <input type="text" value="10"/>
	<input type="radio"/> FTP on Remote Server Maximum Time Interval Between Transferring: <input type="text" value="3600"/> seconds
	FTP Host: <input type="text"/>
	Directory: <input type="text"/>
	Username: <input type="text"/>
	Password: <input type="text"/>
	<input type="radio"/> SCP on Remote Server Maximum Time Interval Between Transferring: <input type="text" value="3600"/> seconds
	Protocol: <input type="radio"/> SSH1 <input checked="" type="radio"/> SSH2
	SCP Host: <input type="text"/>
	Directory: <input type="text"/>
Username: <input type="text"/>	
<input type="checkbox"/> Enable Host Key Checking <input checked="" type="radio"/> Automatically Scan <input type="radio"/> Enter Manually <input type="text"/>	

- ステップ 2** ログタイプを選択し、ログ名（ログディレクトリ用）とログファイル自体の名前を入力します。
- ステップ 3** 該当する場合、最大ファイルサイズとログレベルを指定します。
- ステップ 4** （コンフィギュレーション履歴ログのみ）パスワードをログに含めるかどうかを選択します。



(注) マスクされたパスワードが含まれているコンフィギュレーションはロードできません。コンフィギュレーション履歴ログからコンフィギュレーションをロードする可能性がある場合は、**[Yes]** を選択してパスワードをログに含めます。

- ステップ 5** ログの取得方法を設定します。
- ステップ 6** 変更を送信し、保存します。

ログサブスクリプションの編集

ログサブスクリプションを編集するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Log Subscriptions] ページの [Log Name] カラムにあるログ名をクリックします。[Edit Log Subscription] ページが表示されます。
- ステップ 2** ログサブスクリプションを更新します。
- ステップ 3** 変更を送信し、保存します。

ロギングに対するグローバル設定

システムは、テキストメールログおよびステータスログ内にシステムメトリックを定期的に記録します。[Log Subscriptions] ページの [Global Settings] セクションにある [Edit Settings] ボタン（または、CLI の `logconfig -> setup` コマンド）を使用して、次の情報を設定します。

- システムが測定を記録するまで待機する時間（秒単位）
- メッセージ ID ヘッダーを記録するかどうか
- リモート応答ステータスコードを記録するかどうか
- 元のメッセージのサブジェクトヘッダーを記録するかどうか

- メッセージごとにログに記録するヘッダー

すべての Cisco IronPort ログには、次の 3 項目を任意で記録できます。

- **[Message-ID]** : このオプションを設定すると、可能な場合はすべてのメッセージのメッセージ ID ヘッダーがログに記録されます。このメッセージ ID は、受信したメッセージから取得される場合と、AsyncOS で生成される場合があります。例 :

```
Tue Apr 6 14:38:34 2004 Info: MID 1 Message-ID Message-ID-Content
```

- **[Remote Response]** : このオプションを設定すると、可能な場合はすべてのメッセージのリモート応答ステータス コードがログに記録されます。例 :

```
Tue Apr 6 14:38:34 2004 Info: MID 1 RID [0] Response 'queued as 9C8B425DA7'
```

リモート応答文字列は、SMTP 会話配信時の DATA コマンドへの応答後に受信される、人が読み取ることのできるテキストです。この例では、接続ホストが **data** コマンドを実行した後のリモート応答が、「**queued as 9C8B425DA7**」となります。

[...]

```
250 ok hostname
```

```
250 Ok: queued as 9C8B425DA7
```

文字列の先頭にある空白や句読点、および 250 応答の OK 文字は除去されます。文字列の末尾については、空白だけが除去されます。たとえば、Cisco IronPort アプライアンスはデフォルトで、DATA コマンドに対して 250 Ok: Message MID accepted という文字列で応答します。したがって、リモートホストが別の Cisco IronPort アプライアンスである場合は、「Message MID accepted」というエントリがログに記録されます。

- [Original Subject Header] : このオプションをイネーブルにすると、各メッセージの元のサブジェクト ヘッダーがログに記録されます。

```
Tue May 31 09:20:27 2005 Info: Start MID 2 ICID 2

Tue May 31 09:20:27 2005 Info: MID 2 ICID 2 From: <mary@example.com>

Tue May 31 09:20:27 2005 Info: MID 2 ICID 2 RID 0 To: <joe@example.com>

Tue May 31 09:20:27 2005 Info: MID 2 Message-ID '<44e4n$2@example.com>'

Tue May 31 09:20:27 2005 Info: MID 2 Subject 'Monthly Reports Due'
```

メッセージ ヘッダーのロギング

場合によっては、メッセージがシステムを通過するときに、メッセージのヘッダーの存在と内容を記録する必要があります。[Log Subscriptions Global Settings] ページ（または、CLI の `logconfig -> logheaders` サブコマンド）で、記録するヘッダーを指定します。Cisco IronPort アプライアンスは、指定されたメッセージヘッダーをテキスト メール ログおよびトラッキング ログに記録します。ヘッダーが存在する場合、システムはヘッダーの名前と値を記録します。ヘッダーが存在しない場合は、ログに何も記録されません。



(注) システムは、ロギングに指定したヘッダーに関係なく、メッセージの記録処理中に随時、メッセージに存在するすべてのヘッダーを評価します。



(注) SMTP プロトコルについての RFC は、<http://www.faqs.org/rfcs/rfc2821.html> にあります。この RFC には、ユーザ定義のヘッダーが規定されています。



(注)

logheaders コマンドを使用してヘッダーをログに記録するように設定している場合、ヘッダー情報は配信情報の後に表示されます。

表 13-23 ログ ヘッダー

ヘッダー名	ヘッダーの名前
値	ログに記録されるヘッダーの内容

たとえば、ログに記録するヘッダーとして「date, x-subject」を指定すると、メール ログに次の行が表示されます。

```
Tue May 31 10:14:12 2005 Info: Message done DCID 0 MID 3 to RID [0]
[('date', 'Tue, 31 May 2005 10:13:18 -0700'), ('x-subject', 'Logging this
header')]
```

GUI を使用したログインのグローバル設定

ログインのグローバル設定を行うには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Log Subscriptions] ページの [Global Settings] セクションにある [Edit Settings] ボタンをクリックします。[Log Subscriptions Global Settings] ページが表示されます。

図 13-2 ログ サブスクリプションのグローバル設定

Log Subscriptions Global Settings

Edit Global Settings

System metrics frequency: 45 seconds

Logging Options:

- Message-ID headers in Mail Logs
- Original subject header of each message
- Remote response text in Mail Logs

Headers (Optional): List any headers you want to record in the log files:

date
x-subject

Cancel Submit

- ステップ 2** システム メトリクスの頻度、メール ログにメッセージ ID ヘッダーを加えるかどうか、リモート応答を加えるかどうか、および各メッセージの元のサブジェクトヘッダーを加えるかどうかを指定します。
- ステップ 3** ログに加えるその他のヘッダーを入力します。
- ステップ 4** 変更を送信し、保存します。

ログ サブスクリプションのロールオーバー

AsyncOS は、[Log Subscriptions Global Settings] ページ（または CLI の `logconfig` コマンド）での設定に基づいてログ ファイルをロールオーバーします。また、[Log Subscriptions] ページの [Rollover Now] ボタンをクリックするか、`rollovernow` コマンドを使用することによって、必要に応じてログ ファイルをロールオーバーできます。AsyncOS がログ ファイルをロールオーバーすると、次のことが行われます。

- ロールオーバーのタイムスタンプで新規のログ ファイルが作成され、文字「c」の拡張子によって現在のファイルとして指示されます。
- 現在のログ ファイルが、保存済みを示す文字「s」の拡張子付きに名前変更されます。
- 新たに保存されたログ ファイルがリモート ホストに転送されます（プッシュ ベースの場合）。
- 同じサブスクリプションから以前に失敗したログ ファイルが転送されます（プッシュ ベースの場合）。
- 保持するファイルの合計数を超えた場合は、ログ サブスクリプション内の最も古いファイルが削除されます（ポーリング ベースの場合）。

GUI を使用したログ サブスクリプションのロールオーバー

ログ サブスクリプションをロールオーバーするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Log Subscriptions] ページで、ロールオーバーするログの右側のチェックボックスをオンにします。
- ステップ 2** [All] チェックボックスをオンにして、すべてのログをロールオーバー対象として選択することもできます。

ロールオーバー対象として 1 つまたは複数のログを選択すると、[Rollover Now] ボタンがイネーブルになります。

ステップ 3 [Rollover Now] ボタンをクリックして、選択したログをロールオーバーします。

CLI を使用したログ サブスクリプションのロールオーバー

rollovernow コマンドを使用して、一度にすべてのログ ファイルをロールオーバーするか、リストから特定のログ ファイルを選択します。

グラフィカル ユーザ インターフェイスでの最近のログ エントリの表示

GUI を介してログ ファイルを表示するには、[Log Subscriptions] ページのテーブルの [Log Files] カラムにあるログ サブスクリプションをクリックします。ログ サブスクリプションへのリンクをクリックすると、パスワードを入力するプロンプトが表示されます。次に、そのサブスクリプションのログ ファイルのリストが表示されます。いずれかのログ ファイルをクリックして、ブラウザに表示したり、ディスクに保存したりすることができます。グラフィカル ユーザ インターフェイスを介してログを表示するには、管理インターフェイスで FTP サービスをイネーブルにしておく必要があります。

図 13-3 グラフィカル ユーザ インターフェイスでのログ ファイルの表示

Log Subscriptions

Configured Log Subscriptions					
Add Log Subscription...					
Log Name	Type	Log Files	All	Rollover	Delete
cli_logs	CLI Audit Logs	ftp://cyclone.eng/cli_logs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
euq_logs	IronPort Spam Quarantine Logs	ftp://cyclone.eng/euq_logs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
euqgui_logs	IronPort Spam Quarantine GUI Logs	ftp://cyclone.eng/euqgui_logs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
gui_logs	HTTP Logs	ftp://cyclone.eng/gui_logs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
mail_logs	IronPort Text Mail Logs	ftp://cyclone.eng/mail_logs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
reportd_logs	Reporting Logs	ftp://cyclone.eng/reportd_logs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
reportqueryd_logs	Reporting Query Logs	ftp://cyclone.eng/reportqueryd_logs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
sibld_logs	Safe/Block Lists Logs	ftp://cyclone.eng/sibld_logs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
smad_logs	SMA Logs	ftp://cyclone.eng/smad_logs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
system_logs	System Logs	ftp://cyclone.eng/system_logs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
trackerd_logs	Tracking Logs	ftp://cyclone.eng/trackerd_logs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

Note: To view log files via FTP you must enable the FTP service on the 'Management' Interface.

最新のログ エントリの表示 (tail コマンド)

AsyncOS では、アプライアンスに設定されたログの最新エントリを表示する tail コマンドをサポートしています。tail コマンドを実行し、現在設定されているログのうち、表示するログの番号を選択します。Ctrl を押した状態で C を押して、tail コマンドを終了します。



(注)

コンフィギュレーション履歴ログは、tail コマンドを使用して表示することができません。FTP または SCP を使用する必要があります。

例

次に、tail コマンドを使用してシステム ログを表示する例を示します。tail コマンドは、次の例のように、表示するログの名前をパラメータとして指定することもできます。

```
tail system_logs
```

```
Welcome to the Cisco IronPort M600 Messaging Gateway(tm) Appliance
```

```
example.srv> tail
```

```
Currently configured logs:
```

1. "cli_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "euq_logs" Type: "Cisco IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "euqgui_logs" Type: "Cisco IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
4. "gui_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "mail_logs" Type: "Cisco IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
6. "reportd_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "reportqueryd_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll


```
8. "sblld_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
```

```
9. "smad_logs" Type: "SMA Logs" Retrieval: FTP Poll
```

```
10. "system_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
```

```
11. "trackerd_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
```

```
Enter the number of the log you wish to tail.
```

```
[ ]> 10
```

```
Press Ctrl-C to stop.
```

```
Thu Sep 27 00:18:56 2007 Info: Begin Logfile
```

```
Thu Sep 27 00:18:56 2007 Info: Version: 6.0.0-422 SN:  
001143583D73-FT9GP61
```

```
Thu Sep 27 00:18:56 2007 Info: Time offset from UTC: 0 seconds
```

```
Thu Sep 27 00:18:47 2007 Info: System is coming up.
```

```
Thu Sep 27 00:23:05 2007 Warning: DNS query network error '[Errno 64]  
Host is down' to '172.16.0.3' looking up 'downloads.cisco.com'
```

```
Fri Sep 28 22:20:08 2007 Info: PID 688: User admin commit changes:
```

```
Fri Sep 28 23:06:15 2007 Info: PID 688: User admin commit changes:
```

```
^Cexample.srv>
```

ホスト キーの設定

logconfig -> hostkeyconfig サブコマンドを使用して、Cisco IronPort アプライアンスから他のサーバにログをプッシュするときに、SSH で使用するホストキーを管理します。SSH サーバには、秘密キーと公開キーの 2 つのホストキー

が必要です。秘密ホスト キーは SSH サーバにあり、リモート マシンから読み取
ることはできません。公開ホスト キーは、SSH サーバと対話する必要がある任
意のクライアント マシンに配信されます。



(注)

ユーザ キーを管理する方法については、『Cisco IronPort AsyncOS for Email
User Guide』の「Managing Secure Shell (SSH) Keys」を参照してください。

hostkeyconfig サブコマンドによって、次の機能が実行されます。

表 13-24 ホスト キーの管理 : サブコマンドのリスト

コマンド	説明
New	新しいキーを追加します。
Edit	既存のキーを変更します。
Delete	既存のキーを削除します。
Scan	ホスト キーを自動的にダウンロードします。
Print	キーを表示します。
Host	システム ホスト キーを表示します。これは、リモート システム の「known_hosts」ファイルに配置される値です。
Fingerprint	システム ホスト キーのフィンガープリントを表示します。
User	リモート マシンにログをプッシュするシステム アカウントの公 開キーを表示します。これは、SCP プッシュ サブスクリプショ ンを設定するときに表示されるキーと同じです。これは、リ モート システムの「authorized_keys」ファイルに配置される値 です。

次の例では、コマンドによってホスト キーがスキャンされ、ホストに追加され
ます。

```
mail3.example.com> logconfig
```

```
Currently configured logs:
```

```
[ list of logs ]
```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new log.
- EDIT - Modify a log subscription.
- DELETE - Remove a log subscription.
- SETUP - General settings.
- LOGHEADERS - Configure headers to log.
- HOSTKEYCONFIG - Configure SSH host keys.

[>] **hostkeyconfig**

Currently installed host keys:

1. mail3.example.com ssh-dss [key displayed]

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new key.
- EDIT - Modify a key.
- DELETE - Remove a key.
- SCAN - Automatically download a host key.
- PRINT - Display a key.
- HOST - Display system host keys.
- FINGERPRINT - Display system host key fingerprints.
- USER - Display system user keys.

```
[ ]> scan
```

```
Please enter the host or IP address to lookup.
```

```
[ ]> mail3.example.com
```

```
Choose the ssh protocol type:
```

1. SSH1:rsa
2. SSH2:rsa
3. SSH2:dsa
4. All

```
[4]>
```

```
SSH2:dsa
```

```
mail3.example.com ssh-dss
```

```
[ key displayed ]
```

```
SSH2:rsa
```

```
mail3.example.com ssh-rsa
```

```
[ key displayed ]
```

```
SSH1:rsa
```

```
mail3.example.com 1024 35
```

```
[ key displayed ]
```

```
Add the preceding host key(s) for mail3.example.com? [Y]>
```

```
Currently installed host keys:
```

1. mail3.example.com ssh-dss [key displayed]
2. mail3.example.com ssh-rsa [key displayed]
3. mail3.example.com 1024 35 [key displayed]

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new key.
- EDIT - Modify a key.
- DELETE - Remove a key.
- SCAN - Automatically download a host key.
- PRINT - Display a key.
- HOST - Display system host keys.
- FINGERPRINT - Display system host key fingerprints.
- USER - Display system user keys.

```
[ ]>
```

```
Currently configured logs:
```

```
[ list of configured logs ]
```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new log.
- EDIT - Modify a log subscription.
- DELETE - Remove a log subscription.
- SETUP - General settings.
- LOGHEADERS - Configure headers to log.
- HOSTKEYCONFIG - Configure SSH host keys.

[]>

mail3.example.com> **commit**